

苫前町における
平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

平成31年1月

苫前町教育委員会

平成30年11月、北海道教育委員会から、北海道の公立学校における調査結果の概要として「平成30年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」が公表された。

苫前町教育委員会ではこの調査結果を受けて苫前町の学力・学習状況を把握し、各学校における指導の工夫改善に生かすために、調査結果の概要をまとめたものである。

◆ 平成30年度全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象学年

ア 小学校調査

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の児童

イ 中学校調査

- ・中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の生徒

3 調査の内容

1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕
- ・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕

※理科はAとBを一体的に出題

2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査期日

平成30年4月17日（火）

6 調査実施した学校・児童生徒数

【調査対象校】 北海道（公立）

区分	対象学校数（校）	実施学校数（実施率）	児童生徒数（人）
小学校	1,016	1,012（99.6%）	39,617
中学校	590	589（99.8%）	39,683
合計	1,606	1,601（99.7%）	79,300

7 児童生徒調査の質問内容（質問紙調査）

学習に対する関心・意欲・態度。総合的な学習の時間。学習時間等。学校生活等。家庭でのコミュニケーション。社会に対する興味・関心。自尊意識。規範意識等。

■ 苫前町の全国学力調査結果の概要

1 児童生徒の学力状況の概要

【 小学校 】

区 分	国語 A 正答率 (%)	国語 B 正答率 (%)	算数 A 正答率 (%)	算数 B 正答率 (%)	理科 正答率 (%)
全 国	7 1	5 5	6 4	5 2	6 0
北海道	7 0	5 3	6 2	4 9	5 9
苫前町	7 1	5 2	5 4	5 1	6 1

(1) 国語 A 主として「知識」に関する問題

* 全道平均を1ポイント上回っている。(全国平均と同等となっている)

- 特に平均正答率が高いものは、設問8ーイ「文の中で漢字を使う」(93.8%)、設問1「事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる」(87.5%)などの問題である。
- 課題が見られるものは、設問5「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる」(37.5%)で、主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにすることが大切である。また、設問8ーオ「文の中で漢字を使う」(37.5%)で、用いられている言葉や文脈との関係から、どの漢字を使うことが適当であるかを捉えることができるようにする必要がある。
- 今後は、
 - ① 主語と述語との関係については、表現するときだけではなく、文章を読むときにも強く意識できるように指導することが大切である。また、書くことの学習とも関連を図り、児童が自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返していく習慣を付けることが必要である。
 - ② 本問で取り上げたように、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中での使い分けに着目できるように、指導することが必要である。

(2) 国語 B 主として「活用」に関する問題

* 全道平均を1ポイント下回っている。(全国平均を3ポイント下回っている)

- 平均正答率が比較的高いものは、設問1ー「話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることができるかどうかをみる」(81.3%)、設問1二「計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることができるかどうかをみる」(75.0%)などの問題である。
- 課題が見られるものは、設問2二「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる」(12.5%)で、条件①a「よくかむこと」は取り上げているが、条件①b「だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと」を取り上げて書くことができていない児童が多い。
- 今後は、
 - ① 文章を読んでどの部分が特に重要かなど、内容の中心を明確にして詳しく書く活動を多く取り入れる必要がある。

(3) 算数A 主として「知識」に関する問題

* 全道平均を8ポイント下回っている。(全国平均を10ポイント下回っている)

○ 特に平均正答率が高いものは、設問5(1)「 180° の角の大きさを理解しているかどうかをみる」(87.5%)、設問4(1)「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しているかどうかをみる」(81.3%)などの問題である。

● 課題が見られるものは、設問2「少数の除法の意味について理解しているかどうかをみる」(18.8%)で、解答類型からは被除数が除数の幾つ分かを求める問題場面では、4を選択することはできているが、1も選択している児童が多いと考えられる。また、設問7(1)、(2)「円周率の意味や、直径の長さと同周の長さの関係について理解しているかどうかをみる」(ともに25.0%)で、(1)では円周率を求める式と同周を求める式を混同していると考えられ、(2)では直径の長さを2倍にすると、同周の長さは3.14倍になると捉えている児童が多いと考えられる。

□ 今後は、

① 被除数が除数の幾つ分かを求める問題場面では、除数が1より小さい小数である場合でも除法を用いることなど小数の除法の意味についてさらに理解を深める指導が必要である。

② 直径の長さと同周の長さの関係について理解できるようにするには、例えば幾つかの円について「直径の長さを2倍にしたとき、同周の長さはどうなりますか」などと問かけ、実際に直径の長さを測定する活動など、作業的・体験的な活動を通して、直径の長さと同周の長さの関係について理解できるようにすることが大切である。

(4) 算数B 主として「活用」に関する問題

* 全道平均を2ポイント上回っている。(全国平均を1ポイント下回っている)

○ 特に平均正答率が高いものは、設問1(1)「合同な三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができるかどうかをみる」(68.8%)、設問5(2)「折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができるかどうかをみる」(68.8%)などの問題である。

● 課題が見られるものは、設問3(1)「メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを言葉や数を用いて記述できているかどうかをみる」(18.8%)で、解答類型からは、メモ1については「示された数値が、12月の人数であることを捉えることはできている」が、メモ2については「示された数値が、二つの月の人数の差であることを捉えることはできていない」児童が多いと考えられる。また、設問3(2)「一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができるかどうかをみる」(18.8%)で、解答類型からは二つのグラフではなく、グラフ2のみで判断している児童が多いと考えられる。

□ 今後は、

① グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、本設問のように、「12月に進んであいさつをした人は約570人」や「進んであいさつした人は7月から12月で約50人増えた」などの読み取った情報を、総数や変化といった観点で分類し、それぞれの情報について意見を出し合う活動が考えられる。

- ② あるグラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見いだした新たな問題を解決したりするために、グラフを新たに作り、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することができるようにすることが大切である。

(5) 理科に関する問題

* 全道平均を2ポイント上回っている。(全国平均を1ポイント上回っている)

- 特に平均正答率が高いのは、設問1(3)「骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解しているかどうかをみる」(93.8%)、設問4(2)「より妥当な考えを作り出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できるかどうかをみる」(93.8%)などの問題である。
- 課題が見られるものは、設問2(3)「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるかどうかをみる」(18.8%)で、解答類型からは、一度に流す水の量を増やしたという原因についての的確に捉えて記述することができておらず、原因と結果の視点で捉えて分析し、考察したことを説明できていないと考えられる。
- 今後は
- ① 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするためには、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにすることが大切である。本設問のように、実験結果である倒れた棒の本数を表などに整理して、考えの根拠となる事実を明確にすることが大切である。また、事実(条件と結果)とその解釈(その結果から考えられること)の両方を整理して説明する学習活動が考えられる。

【中学校】

区 分	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
	正答率 (%)	正答率 (%)	正答率 (%)	正答率 (%)	正答率 (%)
全 国	7 6	6 1	6 6	4 7	6 6
北海道	7 7	6 1	6 5	4 6	6 7
苫前町	7 9	6 3	6 7	4 8	6 5

(1) 国語 A 主として「知識」に関する問題

* 全道平均を2ポイント上回っている。(全国平均3ポイント上回っている)

○ 正答率が高いものは、設問8-1「漢字を書く(紙をひもでタバねる)」(100%)。設問8-2「漢字を読む(池の水が凍る)」(100%)。設問8-3「漢字を読む(技を磨く)」(100%)。設問三ウ「適切な敬語を選択する(先生が私たちに大切なことをおっしゃった)」(100%)。設問8-キ「適切な語句を選択する(姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。一方、妹は一人で本を読むことが好きだ)」(100%)。設問8-四1『「心を打たれる」の意味として適切なものを』(100%)などの問題である。

● 課題が見られるものは、設問8-四2『「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く』(17.4%)などの問題である。

□ 今後は、

① 文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導することが大切である。

(2) 国語 B 主として「活用」に関する問題

* 全道平均より2ポイント上回っている。(全国平均2ポイント上回っている)

○ 正答率が高いものは、設問2-二「二人に続いてする質問を書く」(91.3%)。設問3-一「登場人物についての説明として適切なものを選択する」(87.0%)などの問題である。

● 課題が見られるものは、設問1-三「「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く」(13.0%)などの問題である。

□ 今後は、

① 目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導することが大切である。

(3) 数学 A 主として「知識」に関する問題

* 全道平均より2ポイント上回っている。(全国平均1ポイント上回っている)

○ 正答率が高いものは、設問2(2)「 $6a^2b \div 3a$ を計算する」(100%)。設問3(2)「比例式 $x : 20 = 3 : 4$ を解く」(100%)などの問題である。

● 課題が見られるものは、設問8「対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ」(13.0%)。設問1-2「歩いた道のりと残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ」

(30.4%)。設問15(1)「1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ」(39.1%)などの問題である。

□ 今後は、

- ① 対頂角の性質や三角形の内角の和、平行四辺形の性質などの学習において、帰納的に調べていくことと演繹的に推論していくことの違いを確認することで、証明の必要性と意味についての理解を深められるように指導することが大切である。
- ② 具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べることを通して、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断することができるように指導することが大切である。
- ③ 実験を通して、ある試行を多数回繰り返したときに、ある事象が起こる回数全体に対する割合が近づいていく値として、確率の意味を実感を伴って理解できるように指導することが大切である。

(4) 数学B 主として「活用」に関する問題

* 全道平均より2ポイント上回っている。(全国平均1ポイント上回っている)

- 正答率の高いものは、設問2(1)「はじめの数が10のときの計算結果を求める」(95.7%)。設問3(2)「グラフから列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める」(82.6%)などの問題である。
- 課題が見られるものは、設問5(1)「S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く」(4.3%)。設問5(2)「通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する」(8.7%)。設問3(3)「A駅からの道のりが6kmの地点において、列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する」(21.7%)。設問4(3)「平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する」(30.4%)。設問2(2)「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する」(30.4%)などの問題である。

□ 今後は、

- ① 実生活の場面で事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導することが大切である。
- ② ある事柄が成り立つことを説明する際には、説明すべき事柄(表、式、グラフなどから得られた数学的な結果を事象に即して解釈)とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明することができるように指導することが大切である。
- ③ 問題解決の方法を、数学的な表現(二つの数量、一次関数等)を用いて説明できるように指導することが大切である。
- ④ 新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れ、付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。
- ⑤ 事柄が一般的に成り立つ理由を説明するために、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが必要である。

(5) 理科に関する問題

* 全道平均より2ポイント下回っている。(全国平均1ポイント下回っている)

○ 正答率の高いものは、設問9(1)「植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けているかをみる」(100%)。設問7(3)「初期微動継続時間の長さ地震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用することができるかどうかをみる」(95.7%)。設問2(1)「無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できるかどうかをみる」(91.3%)などの問題である。

● 課題が見られるものは、設問9(2)「部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる」(21.7%)。設問3(1)「コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる」(30.4%)。設問2(2)「理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる」(34.8%)。設問5(1)「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる」(39.1%)などの問題である。

□ 今後は、

- ① 自然の事物・現象を科学的に探究する上で、「原因として考えられる要因」を全て指摘し、問題解決の知識・技能を活用して、条件を制御した実験を計画することは大切である。
- ② 天気図や気象衛星画像などの気象情報を基に天気の変化を考える上で、観測者の視点から気象現象を捉えることは大切である。
- ③ 実際に水溶液をつくる学習場面を設定することが考えられる。その際、つくった水溶液が特定の質量パーセント濃度であるか、溶液と溶媒と溶質の質量の関係に注意しながら確認することが大切である。
- ④ 動物が外界の刺激に適切に反応する仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと働きとを関連付けて捉える上で、感覚器官や神経系の基礎的・基本的な知識を習得することは大切である。

2 児童生徒の学習状況の概要

〔学習状況調査結果の傾向〕

質問紙調査は、子どもたちの生活習慣や学習環境などについての質問で構成されており、学習意欲、学習環境、生活の諸側面等に関する調査内容となっている。

本調査において、「している」「どちらとえばしている」など肯定的に解答した児童生徒が80%を超えたものを高い傾向、60%未満を低い傾向として分類した。

◆ 苫前町の児童生徒が高い傾向（80%以上）を示した質問事項

○ 小学校、中学校共通

- * 学校のきまりを守っている。
- * いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- * 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- * 朝食を毎日食べている。
- * 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- * 家で、学校の宿題をしている。
- * 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしている。
- * テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）
- * 調査問題の解答時間は十分だった。（理科）

○ 小学校のみ

- * 自分には、よいところがある。
- * 先生は、自分のよいところを認めてくれている。
- * 将来の夢や希望をもっている。
- * 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- * 家で、自分で計画を立てて勉強している。
- * 5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。
- * 今住んでいる地域の行事に参加している。
- * 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- * 算数の勉強は大切だと思う。
- * 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- * 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- * 理科の勉強は好きだ。
- * 理科の勉強は大切だと思う。
- * 理科の授業の内容はよく分かる。
- * 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。
- * 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

- * 理科の授業で自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。
- * 観察や実験を行うことは好きだ。
- * 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- * 5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思った。
- * 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと思う。
- * 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

○ 中学校のみ

- * 数学ができるようになりたいと思う。
- * 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。
- * 調査問題の解答時間は十分だった（国語A）。
- * 調査問題の解答時間は十分だった（国語B）。
- * 調査問題の解答時間は十分だった（数学A）。

◆ 苫前町の児童生徒が低い傾向（60%未満）を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- * 地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある。
- * 地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。
- * 新聞を読んでいる。
- * 算数の勉強が好き。
- * 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- * 算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- * 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。

○ 小学校のみ

- * 算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う。
- * 算数の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろの方法を考える。
- * 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- * 調査問題の解答時間は十分だった。（算数B）

○ 中学校のみ

- * 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- * 家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- * 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。

- * 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- * 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。

◆ 苫前町の児童生徒が全道より高い傾向（５ポイント以上～２０ポイント未満）を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- * 新聞を読んでいる。
- * 理科の授業で自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。

○ 小学校のみ

- * 自分には、よいところがあると思う。
- * 先生は、自分のよいところを認めてくれている。
- * 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- * いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- * 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- * 朝食を毎日食べている。
- * ５年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。
- * 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思う。
- * 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- * 理科の勉強は好きだ。
- * 理科の勉強は大切だと思う。
- * 理科の授業の内容はよく分かる。
- * 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。
- * 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている。
- * 観察や実験を行うことは好きだ。
- * 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- * 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。
- * ５年生のとき、理科の授業がおもしろいと思った。
- * 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- * 調査問題の解答時間は十分だった。（国語Ａ）

○ 中学校のみ

- * 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- * 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。
- * 今住んでいる地域の行事に参加している。
- * 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。

- * 地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んだりすることがある。
- * 数学の勉強が好きだ。
- * 数学の授業の内容がよく分かる。
- * 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- * 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。
- * 理科の問題で、解答を文章などで書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したりしている。
- * 調査問題の解答時間は十分だった（理科）。

◆ 苫前町の児童生徒が全道より20ポイント以上高い傾向を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- * 今住んでいる地域の行事に参加している。
- * 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。

○ 小学校のみ

- * 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。

○ 中学校のみ

- * 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。

◆ 苫前町の児童生徒が全道より20ポイント以上低い傾向を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

なし

○ 小学校のみ

- * 地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある。
- * 算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う。
- * 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- * 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- * 算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- * 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。
- * 調査問題の解答時間は十分だった（算数A）。

○ 中学校のみ

なし

〔 児童生徒質問紙から読み取れる傾向 その1 〕

質 問 内 容		小学校	小学校	中学校	中学校
		本町	全道	本町	全道
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます）	3時間以上	0	6.4	0	7.6
	2～3時間	0	12.8	30.4	22.6
	1～2時間	56.3	37.9	39.1	34.5
	30分～1時間	43.8	30.0	8.7	18.6
	30分以内	0	10.7	17.4	9.9
	全くしない	0	2.2	4.3	6.7
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）	2時間以上	0	7.7	17.4	6.6
	1～2時間	6.3	11.3	13.0	9.5
	30分～1時間	6.3	19.7	8.7	16.7
	10分～1時間	56.3	24.1	21.7	22.5
	10分以下	6.3	15.0	13.0	13.8
	全くしない	25.0	22.1	26.1	30.7
放課後に何をして過ごすことが多いですか。	部活動	87.5	64.0	82.6	73.6
	勉強・読書	0	8.8	47.8	45.6
	地域活動	6.3	5.4	0	2.1
	学習塾等	0	23.8	8.7	34.4
	習い事	18.8	40.5	17.4	14.7
	スポーツ	62.5	47.9	47.8	22.5
	テレビ・インターネット・ゲーム	100	86.0	91.3	82.5
	家族と過ごす	93.8	67.1	47.8	52.2
	友達と過ごす	87.5	77.9	65.2	45.2
週末に何をして過ごすことが多いですか。	学校で授業	6.3	13.9	17.4	11.6
	部活動	62.5	61.1	82.6	64.4
	勉強・読書	6.3	9.8	34.8	43.8
	学習塾等	12.5	20.1	0	18.0
	習い事	18.8	7.4	8.7	7.4
	スポーツ	37.5	39.5	47.8	21.2
	地域活動	6.3	9.8	4.3	4.0
	テレビ・インターネット・ゲーム	100	88.1	78.3	84.3
	家族と過ごす	93.8	81.4	56.5	63.1
	友達と過ごす	87.5	80.7	60.9	57.8

〔 児童生徒質問紙から読み取れる傾向 その2 〕

選択項目のうち、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」を合わせたポイントが、5ポイント未満（ほぼ同じ）。5ポイント以上～20ポイント未満（「高い」又は「低い」で表した）。20ポイント以上の差（「非常に高い」又は「非常に低い」で表した）

<学習に対する関心・意欲・態度>

- 「算数・数学の勉強が好きですか」の質問では、「好き」・「どちらかといえば好き」の割合は、全道と比べ小学生では低かったが、中学生では高かった。
- 「理科の勉強が好きですか」の質問では、「好き」・「どちらかといえば好き」の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生ではほぼ同じだった。

<学習時間等>

- 家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は非常に高かったが、中学生では低かった。
- 家で、学校の宿題をしている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生ではほぼ同じだった。
- 家で、授業の予習・復習をしている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では低かったが、中学生ではほぼ同じだった。
- 家で、「予習・復習やテスト勉強など自学自習において、教科書を使いながら学習している」児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低かったが、中学生はほぼ同じだった。

<基本的な生活習慣>

- 朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生では低かった。
- 毎日同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共にほぼ同じであった。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生ほぼ同じであったが、中学生では高かった。

<家庭でのコミュニケーション>

- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じであったが、中学生は高かった。

<地域との関わり>

- 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に非常に高かった。
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では非常に高かったが、中学生ではほぼ同じだった。
- 地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では低かったが、中学生では高かった。

<社会に対する興味・関心>

- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じだったが、中学生では高かった。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は非常に低かったが、中学生ではほぼ同じだった。
- 新聞を読んでいる児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じだったが、中学生では高かった。